

1. 目的

市川市総合計画第三次基本計画(案)について、市民目線で施策分野をブラッシュアップする。

2. 市民ワークショップ概要（2日間の構成）

1日目(8/20 10時～12時)

現在の市の課題や強み・可能性について
⇒重点課題を乗り越えるためには、どこに注力すべきか市民目線で聞き取る



2日目(8/27 10時～12時)

将来、市の強みや可能性が活かされた場合、どのような市川市になるかについて
⇒重点課題を乗り越えた先の参加者自身が叶えたい市の将来像について聞き取る

3. 8つの重点課題に対する整理（主な意見を抜粋）

重点課題	現在の課題（1日目）	将来の姿（2日目）
①子育て世代の定住促進	保育施設が高倍率 公園や緑が少ない	保育施設に入りやすい 子育て情報を効果的に発信している 若い世代が地域コミュニティを形成している
②健康寿命の延伸	気軽にランニング等 ができる場所が少ない	近くで安心してランニング等 ができる環境がある
③自然災害・感染症への対応	低地部での内水氾濫	災害に強く安心して住める デジタル技術を活用して災害情報を提供している
④多様性を意識した施策展開	多様な方に向けた情報 発信	海外の人がいても違和感がない
⑤地域コミュニティの再構築	自治会やボランティアの 高齢化 住民同士の繋がりの薄れ	地域コミュニティに若い世代が 参加しやすい 近隣住民同士の顔の見える関係がある
⑥地域経済の活性化	購買層が都心へ流出	アクセスの良さを活用し、 地域経済が活性化している 大型ショッピングセンターが 充実している 歴史的な場所や文化を包括的にPRしている
⑦カーボンニュートラルの実現	自然や公園の減少	自然環境が保全され、公園が 充実している エネルギーを自給自足している
⑧デジタル化による利便性向上	デジタル技術を活用した市のPR	デジタル技術を活用して市の 魅力をPRしている

【参考】

第1回 現在の市川市の課題や、市の強み・可能性について（主な意見を抜粋）

現在の課題	現在の市の強み・可能性
【子育て】 ●大規模分譲住宅近くは保育園の倍率が高い。 【防災】 ●市南部で内水氾濫が起きた。機械排水の容量を増やす必要がある。 ●低地は浸水区域が多い。 【道路・交通】 ●歩道が狭く、段差が多い。 ●昔の水路に蓋をした歩道の段差が多い。 ●駅から大学までのバスが混雑している。 【公園・緑地】 ●自然や公園が少ない。 ●気軽にランニング等ができる場所少ない。 【資源循環型社会】 ●カラスにゴミが荒らされる。 【地域コミュニティ・市民活動】 ●自治会に若者が少ない。 ●住民同士の繋がりが薄れた。	【文化的資産】 ●博物館や歴史的な場所等が多くある。 【道路・交通】 ●車や電車で都心からのアクセスが良い。 ●外環ができて渋滞が改善した。 【土地利用・景観】 ●桜並木等で景観が良い。 ●東京の様な雑多な部分が少ない。 【経済・商工業】 ●映画館や商業施設等が便利。 ●道の駅が市民の安らぎの場となっている。 【公園・緑地】 ●自然や緑が多い。 ●貯水池が鳥の憩いの場となっている。 【地域コミュニティ・市民活動】 ●自治会加入率が高い。 ●建売住宅で若いコミュニティーが形成した。 ●ボランティアが多い。

第2回 市の強みや可能性が発揮された将来の市川市の姿について（主な意見を抜粋）

市の強みが発揮された将来の姿	2025年までに何を必要とする必要があるか
【多様性社会】 ●海外の人がいても違和感がない。 【文化的資産】 ●神社や寺など市の魅力がPRされる。 【防災】 ●災害に強く、市民が安心して住める。 【土地利用・景観】 ●無電柱化で街がすっきりしている。 【経済・商工業】 ●地元で商売できる。 【公園・緑地】 ●自然が豊かで自然体験を増やしている。 【地球環境】 ●地域でエネルギーの自給自足ができる。 【協働・市民参加】 ●市民、市議会、行政が協力している。 【情報発信・提供】 ●市民が市の情報をしっかり把握している。 【地域コミュニティ】 ●近隣と顔の見える関係が構築されている。 ●多くのボランティアの活躍の場がある。 【行政経営】 ●デジタル化による迅速な災害情報を提供する。	【多様性社会】 ●国際的なまちづくり。 【経済・商工業】 ●商売しやすい環境づくり。 【公園・緑地】 ●緑を増やす活動をする。 【情報発信・提供】 ●市の魅力を効果的にPRする。 【地域コミュニティ・市民活動】 ●コミュニティ等の繋がりをつくる。 ●市民との協働を推進する。 ●若い力を積極的に活用する。 ●市民が楽しく協力し合える環境づくり。 ●市民が関われるワークショップを増やす。